

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390103291		
法人名	株式会社みのり		
事業所名	グループホーム永の郷		
所在地	熊本市南区城南町永1209		
自己評価作成日	令和7年1月8日	評価結果市町村受理日	令和7年3月31日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先			

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和7年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいてご利用者の個性を色々な角度から考察し、その人らしい生活が出来るような取り組みが出来ていると思う。また、ご家族からも見慣れた職員のため安心感があり、信頼関係もある程度築いていると確信している。環境面では広い敷地で田園地帯に囲まれる静かな環境にあるため、ゆったりとした時間が流れている。庭の畑では季節の野菜や花を楽しみ採れた野菜を美味しく頂く等、敷地内のグランドでは、グランドゴルフ大会を年2回開催している。春には満開の桜の下で、職員・利用者様共に花見を楽しみ、季節の行事も盛りだくさんで年間を通して楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは有料施設やデイサービスを併設した地域に根付いた小規模な福祉施設であり、田園風景に囲まれた静かな環境下にある。平屋造りの建物にはリビングを中心に各居室が設置され、日中の生活拠点であるリビングは入居者同士の関係性や行事、陽の入り具合等で並び替え互いが過ごしやすく工夫している。今年度は家族アンケートや家族会を実施し日頃の思いを引き出し、普段言葉を交わすことの無い家族同士の交流の機会としている。運営推進会議には同業者である福祉関係者が出席する他、地域の包括センター主導によるグループホーム連絡会を2ヶ月ごとに開催し、地域情報の共有や互いの取組を発信し、入居者支援に関わるものとして同じ目線で入居者に向き合うよう努力を重ねている。食事の業務委託によりホーム調理が少なくなっている昨今、永の郷では従来からの手作り食に拘り菜園野菜や差し入れ品等を活用し、入居者の希望を取り入れた食事を提供しており、調理室からの音や匂いも生活の一部となっている。本年度は散歩も地域の中を歩くようにしており、景色の移り変わりや人々との挨拶を自然に感じてもらうようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活を送る。」という言葉が理念の中にある。職員全員理解しており、日頃の業務の中で地域の一員としての意識を持ち取り組んでいる。	ホーム名永の郷は地域の永からとられ、地域密着型の事業所として入居者が周囲の人々と繋がりがりながらその人らしい日々を過ごすことが理念の中に込められている。毎朝の唱和や月1回の法人会議、職員会議で理念をもとにした入居者支援に職員の積極的な意見が交わされている。新年度に向けた話し合いの中で理念の振り返りの機会を予定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設されたグラウンドを地域のグランドゴルフされる方への解放や散歩などの利用開放をしている。また、地域のどんどやなどイベントへの駐車場の開放を行っており、また地域運営推進会議などの開催など地域に根ざした活動を行っています。	法人が主催するグランドゴルフ大会(みのり杯)は地域の人々に認知され、グループホームの入居者も協議に参加して人々との交流の機会をもっている。グランドはかねてより地域に開放し、入居者にとっても日中の散歩や春の花見の場所として活用されている。また地元の保育園とは園長が運営推進会議のメンバーとして協力し、園児による踊りや制作物(七夕飾り等)のプレゼントに入居者が喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議では、皆さんから地域で発生しているさまざまなケースについてお話を伺い、それを全員で共有しています。また、当施設で対応したケースや支援の方法についても情報を提供し、意見交換を行いながら地域全体での支援体制の向上に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族アンケートのまとめなどを運営推進会議で報告していて、意見・感想など伺ってる。また消防団の方との防災についての連携や、家族の代表の方にも参加していただき、意見を伺ったりしています。	会議は1時間ほどを予定して夕方5時から開催している、包括をはじめ地域や家族の代表者、同業者が参加して、ホームの現状や事故、身体拘束などについて報告している。身体拘束についてはセンサーマットを使用する方がマットをそのまま踏いでしまうことから、使用を中止し職員の見守りに対応した例等を報告している。	会議は管理者が対応しているが、新年度にはできれば職員1名も同席し、会議に立ち合うとともに記録係りを担うことで受け入れ態勢に余裕が生まれるものと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議には毎回、ささえりあ城南の方が参加されており、窓口には当施設のパンフレットなどを置かせていただいています。また、二か月に一度開催されるグループホーム連絡会にも、ささえりあ城南の方が毎回ご参加されており意見などいただいています。	運営推進会議に地域包括の職員が毎回参加しており、ホームの現状を発信しながら法人施設への入居などについて情報を交換している。ささえりあを中心にホームを含めた地区の4事業所が参加する“グループホーム連絡会”を2か月ごとに開催し、今回は当ホームを会場として地域情報の共有が図られている。認定調査時には入居者の居室で対応し、職員が立ち合い普段の生活ぶりを見てもらうこととしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員勉強会、全体カンファレンス、身体拘束適正化委員会を定期的に開催しています。そこで職員から意見を出してもらったりケース検討を行い、通常の業務に活かしています。	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に開催すると共に、ホーム内での勉強会の機会を設けている。入居者のベッドからのずり落ちに対する検討会では4点柵を使わず、職員の見守りで対応する事や、「ちょっと待って～」等入居者の動きを静止する言葉には互いに気にかけて注意し合うこと等を共有している。身体拘束についてホームの姿勢を示した「指針」をホーム内に掲示して職員の意識強化と来訪者へ向けた啓発としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会等で議題にあげ、皆で事例検討など行っています。また日頃の言葉使いなど気になったところなど職員同士気にかけており注意するなど職員の意識も高まってきていると思われます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等を利用している利用者はおられませんが、職員勉強会等で学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には契約前には何度も連絡をして細かな説明や疑問点について丁寧にお答えし、納得できるまで対応しています、契約には十分な時間をかけて納得していただけるよう進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回開催している家族会では、意見交換が行える場となっています。ご家族同士での交流や、職員との会話も活発に行われています。また、ご家族が面会された際やお電話での連絡時には、ご家族のご意見等に耳を傾けています。ご家族アンケート等運営に活かしています。	昨年ホームが実施した家族アンケートには入居者の健康面や食事、サービス内容に対する心配事や職員の対応などについて質問を投げかけ、結果を集計して家族への報告と勉強会を経てホーム運営に反映させている。家族会も昨年12月に開催されており、多数の家族が参加する中ホームの近況報告や取組を伝え、家族同士の交流の機会となっている。その後は引き続き個人的な意見や要望を引き出す時間を設けている。	家族会やアンケートで改めて日頃の思いや要望を収集し、ホームの取組に反映させている。今後もアンケートについては入居者支援に反映したい内容等を職員間で検討し、継続されていかれることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内で行う全体カンファレンスでは、職員全員に現在の職場の状況について意見を述べてもらう時間を設けています。これにより、自由に意見を言い合える風通しの良い職場環境づくりを心がけています。	全体のカンファレンスでは職員が入居者の状態に気づいた点や支援の方向性を共有しており、自由に自身の意見や要望を話されている。希望休や有休取得への対応、夜勤従事者を含め、職員一丸となって入居者支援に努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者は職場の雰囲気等の把握に力を入れ、職員との個人面談を適宜行いコミュニケーションを図り個々の意見をくみ上げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は月一回実施している。また、行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて、他施設の方と交流の機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会の実施、相互訪問などの活動を行っています。また、地域密着型サービス連絡会にも参加し、情報収集や共有を積極的に行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の困りごとや不安、要望に丁寧に耳を傾け、安心して生活できるよう全力でサポートしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前には十分な時間をかけて情報収集に努めています。また、必ず本人への面談を実施しています、契約時にも改めてお話を伺うよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後は、職員全員が緊張感を持ちながら細かい観察に努めています。また、ご家族にもご協力をお願いし、本人に変化がないか一緒に見守っていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はグループホームとしての意義と役割を常に会話などの中で共通に認識を持てており、一緒に暮らしているもの同士との関係が築けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当グループホームでは、開かれたホーム作りを目指し、いつでもご家族が気軽に訪問できる環境を整えています。ご家族からのご質問や利用者の現在の状況についての報告は、職員全員が対応できるよう日頃から情報共有を徹底しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや法事、食事に、家族と出かけられておられます。	法事などの自宅への帰省には感染症の状況や入居者自身の体調等をみながら柔軟に対応している。秋の干し柿づくりは入居者の手際のよい包丁使いで皮むきを行い、コーヒーやお茶の温度等こだわりの習慣を会話の中から拾いながら提供している。ホーム周辺の河川敷は菜の花が見事であり、馴染みの風景となっている。入居者は職員とともに地域の散歩に出かけ、会話の弾む日々の日課となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が構築できると席を隣同士にしたり会話支援や散歩を一緒にしたりと安心して生活できるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、相談等あれば支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何がしたいか、何が食べたいか等本人と話す機会を持ち、また普段の会話から拾えるよう心がけています。	入居者の思いや要望は普段の会話の中から聞き取るようにしている。誕生日の希望食に食べたいものを口にされたり、自宅へ行きたい等の声が聞かれるようである。家族会や面会時には入居者の現状を伝えながら、これまでの入居者の暮らし方について情報を収集し、プランに繋ぐようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの話や情報、本人とのコミュニケーションや行動を大切にし、その中から本人の意向により近い生活を提供できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の一日の生活動向を観察することを重視し、起床時のバイタルチェックやレクリエーションへの参加状況、生活リハビリの依頼内容などを通じて、現状を把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、職員から考えや思いを丁寧に聞き取り、皆様の状況を細かく把握しています。その結果、良い介護計画が作成されています。また、モニタリングは各職員からの記録や意見を基に行い、計画に反映させています。	プラン作成にあたり計画作成担当者は本人・家族の意向をもとに入居前の情報から初回プランを立案し、カンファレンスで管理者、職員を交えて新たな情報や検討したい事柄について意見を収集している。入居者には先ずはホームの環境に馴染んでもらい、他者との関わりやレクリエーションへの声掛けをしながら、不安を取り除くような内容をあげている。入居者の中には担当者がプランの内容を読みながら口頭で伝えると安心して自身でサインをされる等、残存能力を活かした取組も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の気づきや工夫などの情報は、日々の介護支援経過表に記入して、スタッフ間で共有しながら実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員には常に利用者の行動からニーズを引き出すことを考えてもらっています。考えたことは即実践してもらっており、迅速で柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係強化を通じて構築した社会資源をうまく活用し、皆様がより豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切にし、家族や職員と連携して通院支援や訪問診療を受けていただいています。通院支援時に、病院ではご家族と一緒に過ごすこともあります。	本人・家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療の他、受診外出をホームや家族による協力も行われている。受診結果で何かあれば家族へ速やかに報告を行っているが、異常など無ければ月1回の報告書の中でその旨を伝えている。歯科は希望により訪問による口腔ケアを受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある他事業所の看護師と連携し、迅速に利用者の様子を確認してもらったり、必要に応じて相談を行っています。これにより、適切な受診や看護をスムーズに受けられるよう支援し、利用者が安心して生活できる環境を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等ご家族や病院関係者とは、密接に連絡を取り合いながら情報を共有し、利用者にとって最適な支援が行えるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、入居時に終末期支援を行わない方針であることを事前にご説明しています。医療が必要となる段階では、入院による対応が中心となりますが、それまでは当施設でできる限りの支援を精一杯行い、利用者のご家族をサポートしています。	入居時にホームでは終末期支援は行わない方針を伝えている。継続した医療支援が必要になった場合入院の対応となるが、ギリギリまでを全職員で支えていくことを申し添えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より講師を招きAEDの使用方法についてや応急処置、その後の手順等の勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えた避難訓練を定期的の実施し、職員間で避難方法や経路の共有を徹底しています。また、地域運営推進会議のメンバーとも協力体制を築いております。	火災・水害などの訓練を計画的に実施しており、1回目を7月に、2回目を3月に水害を想定して行なう予定である。火元をはじめ安全チェックは意識を持って取り組んでおり、夜間はガスの使用を控えている。BCPは策定後、職員間での共有が図られている。	運営推進会のメンバーとは協力体制が築かれ、地域の消防団より会議の中で話が予定されていたが実現に至っておらず、今後の取組が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設では、職員による接遇研修を実施し、利用者お一人おひとりの人格を尊重した対応を徹底しています。この研修を通じて、丁寧で心のこもったサービスを提供できるよう、職員全員が意識を高めています。	接遇研修を通し、入居者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した対応について周知徹底を図っている。呼称は基本的に苗字にさん付けとしているが、同姓者の場合は下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれについても好みの衣装を選択してもらったり、必要時にサポートを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の方をよく観察しており、困っていることや不安などこちらから持ちかけ相談によく乗っています。安心して生活できていると思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちなか、常に利用者に気を配り、時間が許す限り利用者それぞれの方のペースを尊重し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、入浴後の爪切り、外出時の身だしなみや服選びなどを利用者と一緒にし、随時その場で適切な支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の誕生日会ではその方の好みた食べたい料理などを聞き、提供している。また献立作成時も利用者と会話してその時食べたいものを取り入れたりしている。	献立は季節感や入居者の好みを取り入れており、食材購入、調理も職員が行っている。誕生日には希望メニューとしその日に祝っており、ハンバーグやから揚げ、ちらし寿司などを要望されるようである。毎食に汁物を添える事で喉越しも良く、昼食にはヨーグルトが付けられている。食形態は常食の他、嚥下力に応じミキサー食の提供も行われている。職員1名が検食として同じものを摂っており、気付きなどを次回に生かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量を提供しています。一日の摂取量の記録、水分量の確保には気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解しているので力を注いでいる。月二回の訪問歯科による口腔ケアを受けられる方もおられ、一緒に状態を見ながら把握しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	把握した排泄パターンを職員間で共有し、日中はトイレ誘導、夜間はトイレやポータブルトイレを個々に使用して頂いている。また、尿量に合ったパットの使い分けを行っております。	把握した排泄パターンを共有し個々に応じた支援に努めている。現在、リハビリパンツを使用される方が主であるが、布パンツのみで過ごされる方も2名おられる。日中はトイレでの排泄を基本とし、声掛け・誘導が行われ、夜間は個々に応じてポータブルトイレを支援している。ポータブルトイレはその都度棄てることで安眠を妨げる場合もあり、個々に応じて朝の廃棄を行っている。トイレは3か所設けられ使い慣れた所に行かれており掃除が徹底されている。ポータブルトイレも毎日洗浄と漂白、消毒により清潔に管理されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	確認表で各々のパターンを把握しており、病院と協力して薬などを調整して、本人様が苦しくならないようにコントロールできております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施しています。また、汚染があった場合にはその都度入浴していただき、清潔を保てるよう配慮しています。さらに、菖蒲湯やゆず湯などの季節湯を取り入れております。、入浴時間を楽しんでいただける工夫も行っています。	午前中を中心に週3回の入浴を支援しており、殆どの方が湯舟に浸かれています。身体状況からシャワー浴が中心になられた方には足浴やかけ湯をしながら温まってもらっており、勤務体制で男性職員が対応可能な時には、個浴で湯船に浸かってもらえるよう努めている。季節の楽しみとして菖蒲や柚子湯は継続して取り組んでおり、全員が入れる日数準備している。入浴後は水分補給として好みを聞きながらお茶や紅茶、レモンティー、スポーツ飲料などを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床の時間を一律に定めず、利用者お一人おひとりの生活リズムやサイクルに合わせた対応を行っています。これにより、自然で快適な日常生活を送っていただけるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が内服の管理を行ない、セットされたものを服薬介助している。常時内服の相談も担当医、薬剤師と行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グラウンドでの散歩、季節の花見学、菜園での野菜の収穫等楽しみにされている利用者もおられます。季節の行事等も利用者様出来る範囲でお手伝いしていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、買い出しが必要な時の利用者とのドライブを兼ねた買い物を普段より実施・支援を行っている。	敷地内や近隣の散歩は日課となっており、ビニールハウス栽培の農家の方と談笑したり、花名を職員に伝えられるなど、「入居者の方が詳しいです！」と職員は語っている。グラウンドの桜や菜の花、コスモスやイチヨウなど季節の花や紅葉見学をはじめ、12月には近隣施設のイルミネーション見学や2月には全員で初詣にも出かけている。また、個別支援で不足してきた馴染みの化粧品購入に外出したり、家族の協力により墓参や法事に帰省された方もおられる。	訪問当日も3～4名の入居者と職員が杖やシルバーカーを使用し楽しそうに地域を散歩される光景から、ホームの日常が窺えた。変わらぬ取組に期待したい。今後は感染症も落ち着いてきており、入居者の希望や家族の意向も聞きながら帰省を支援したいとしており、実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布等の紛失の可能性があり、トラブル回避のため財布や、金銭の持ち込みは遠慮して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる方や年賀状を書かれる時は職員が付き添い支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度管理や照明の明るさ度合いには気を配っています。散歩時に摘んだ草花を飾られたり、ご家族から送られた植木鉢等に水をあげられる様支援を行っております。	食事をはじめ入居者が日中の殆どを過ごすリビングは、季節に応じ変化する採光を考えてテーブルの向きを検討している。また、席の配置はその時々入居者間の相性や身体状況に応じて対応している。ホーム内には近隣の散歩中に摘んだ草花が飾られ、季節感を感じる事が出来ると共に、「また散歩に出たい！」といった入居者の意欲を後押ししている。居室にテレビを置かれた方も、相撲開催時期は特にリビングで他の入居者と一緒に応援されるようである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの向きや配置、話があうお友達を見極め席替えを行ったりして工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物品や家族の思いが伝わる様な写真等を飾って頂いたりしております。また本人様のお好きな物をもってきて頂いて飾ったり、TVで好きな番組をみたりして過ごす方もおられます。	馴染みや使い慣れた物品を置いたり、思い出の写真など家族の思いが伝わる品を飾ったり掲示されている。衣替えは職員が中心に行っており、必要な物があればその都度家族へ伝えている。また身体状況から歩行や移動の妨げになる物がある場合は、家族と相談しながら持ち帰りを依頼している。居室にテレビを持ち込まれた方は主にNHK番組を楽しまれている。感染症への対応から掃除や換気は継続して徹底されている。	寝具は気持ちよく就寝できるよう天候を見ながら日光干しが行われている。このような取組も家族へ伝える事で安心に繋がるものと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	口腔ケアなどひとりでされる方も多く、自身で歯ブラシ等の保管場所から取り出され歯磨きされておられます。また、片づけも自身でされるよう見守り・声掛けも行っております。		